

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 豊岡健康福祉事務所

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	但馬地域は高齢化が進んだ地域であり、また、県同様低栄養傾向(BMI 20kg/m ²)の高齢者が国に比べて多く、引き続き低栄養・フレイル対策に取り組む必要がある。 20歳代女性のやせが増加しているなど若い世代の食育も課題となっている。 管理栄養士・栄養士の人材発掘や職域を超えた連携が進んでいない。
今年度の推進方策	高齢者の低栄養・フレイル対策及び若い世代の食育を栄養士が他職種、多機関と連携して進めていくため、まずは栄養士の職域を超えた連携づくりを進める。 (1) 医療、地域(栄養ケア・ステーション)、行政(市町・健康福祉事務所)の連携 (2) 母子保健、児童福祉、学校の連携
成果	これまで接点の少なかった多職域の栄養士が顔を合わせ、取組や現状、課題等を共有し、連携した取組に向けた下地ができた。
今後の方向性	市町食育推進計画の評価・改定への支援等を通じて、市町の部局間の新たな連携や連携強化が進むよう働きかけていく。 医療機関、行政栄養士等による協働した取組を通じて、連携を密にし、他職種や他機関との連携に向け検討する。

2 会議の開催状況

実施日時	令和5年3月8日(水) 14:00~15:40
参集者 (団体数及び人数)	但馬圏域医療機関栄養士 6人 但馬圏域市町健康増進所管課栄養士 7人 但馬地域栄養士会(栄養ケア・ステーション但馬) 2人
協議内容	(1) 情報交換 各職域の取組と課題 (2) 意見交換 低栄養・フレイルに該当する高齢者の食生活の特徴 高齢者が地域で暮らしていくために必要な栄養・食支援体制について
今後の方策	指導媒体の情報交換や共有など、医療機関と行政栄養士等との連携により高齢者への栄養・食事指導の内容充実を図る。 低栄養・フレイルハイリスク者など、栄養士から他職種や他機関へつないでいくための情報共有体制について検討していく。

会議の議事録、参集者名簿を添付すること。

3 食育実践活動の結果

テーマ	職域を超えた栄養士の連携に向けて ～高齢者の低栄養・フレイル対策、若い世代の食育推進～		
対象及び参加者数	栄養士未配置施設等	11施設	
	栄養ケア・ステーション但馬登録栄養士	5人	
	豊岡市食育関係課栄養士	8人	
	圏域児童福祉所管課栄養士	3人	
	給食施設協議会会員・市町母子保健担当課	95人	
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	令和4年5月 ～ 令和5年3月 各施設	栄養士未配置給食施設等での献立 作成支援ツールの活用状況、栄養 士への支援希望内容等調査	豊岡健康福祉事務所 栄養士
	令和4年 7月22日(金) 10:00～12:00 朝来健康福祉 事務所	情報交換 ・健康福祉事務所の低栄養・フレ イル対策について ・栄養ケア・ステーション モデ ル事業の実施状況 意見交換 ・職域を超えた栄養士の連携、多 職種連携に向けて	豊岡・朝来健康福祉 事務所栄養士
	令和4年 8月24日(水) 10:00～12:00 12月21日(水) 10:00～12:00 3月6日(月) 14:00～15:30 豊岡健康 福祉事務所 Web	食育連絡会(豊岡市) 母子保健、児童福祉、学校給食 センター栄養士による情報交換 ・子ども子育て世代の食課題 ・若い女性のやせ 圏域児童福祉所管課栄養士連絡会 ・幼児期の食課題 ・保育所・こども園での食育 研修会 講演「発達特性の理解 と食事アドバイス」	豊岡健康福祉事務 所栄養士 豊岡・朝来健康福 祉事務所栄養士 北但給食施設協議会 ノートルダム清心女子大学 山下美保准教授
成 果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養ケア・ステーション登録栄養士との情報交換により、ケア・ステーションモデル事業で当所作成資料が活用されるなど、連携した取組ができた。 ・子ども、子育て世代の指導・支援に携わる栄養士による現状や課題の共有から、課題の1つをテーマに研修会を計画し、多くの参加者を得て実施できた。 <p>【評価指標と目標値及び達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議、研修会への参加率(目標値:会議90%、研修会75%) 各会議:100% 研修会:73.5%(ターゲット施設・機関) ・研修会参加者の満足度(目標80%) 満足・やや満足:97%(アンケート回答者) 		
今後の課題	<p>職域を超えた栄養士の連携(医療と行政、福祉と地域等)を進めるため、指導媒体等の共有やモデルケースへの対応など具体的な取り組みに繋げていく必要がある。</p> <p>若い女性のやせの実態把握や栄養士以外の関係者との情報・課題共有を進め、対策について検討していく必要がある。</p>		

プログラムや内容がわかる資料を抜粋し添付すること。

令和4年度健やか食育プロジェクト

～これまでの取組～

豊岡・朝来健康福祉事務所では、各々2017年度、2019年度から高齢者の低栄養・フレイルをテーマに、高齢者の食を支える関係者への啓発や研修、スーパーでの啓発、通所介護事業所等で提供される食事や配食弁当の栄養管理など食環境への取り組みを進めてきました。



但馬の高齢者



訪問栄養指導に取り組む医療機関が増加

高齢化率は県下2位



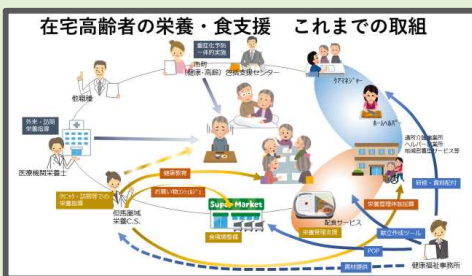
低栄養傾向 (BMI20以下) は県同様約2割

市町では一体的実施で低栄養・重症化予防の取り組みが進んでいる

地域で暮らす高齢者に関わる栄養士の職域が広がってきている

地域で暮らす高齢者に関わる栄養士による情報・意見交換会
 参集者：医療機関、地域（栄養ケア・ステーション）、行政（市町、県）

それぞれの取組や課題共有



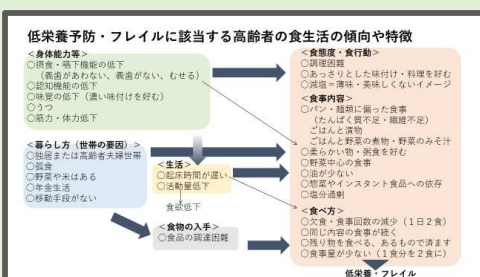
市町から

・せっかく受診につながったのに、受診不要となり、保健指導に繋がらない。

医療機関から

・透析準備のための受診で始めて栄養指導を受ける方が多い。もっと軽症な段階から栄養士が関わればいいのに。

低栄養・フレイルに該当する高齢者の食生活について意見交換



疾病の重症化・介護の重度化を予防するために必要な栄養・食支援体制とは？

- ・職域を超えた栄養士の連携（指導の充実）
- ・他職種や他機関とつながっていく仕組みづくり

但馬の若い世代

若い世代に関わる栄養士による情報交換

参集者：母子保健・児童福祉・学校給食センター（豊岡市）

参集者：児童福祉（豊岡市・養父市・朝来市）

20歳代女性のやせが増加傾向

低出生体重児や早産が増えている???

アレルギーや嗜好ではない偏食が増えている



子どもだけで食事をする家庭が増加し、食に対する意欲が低い。離乳食・幼児食から大人と同じ食事形態へなかなか進まない。

小学校高学年から体型を気にして給食を減らす児童がいる

栄養士未配置施設やホームヘルパーからの声（栄養士へ期待すること）
豊岡・朝来健康福祉事務所調べ

- ・嚥下調整食のレシピ
- ・量を増やさずエネルギー・たんぱく質を確保できる献立
- ・短時間調理で簡単にできる栄養価の高い料理
- ・簡単で栄養補給ができる手作りおやつレシピ
- ・気軽に相談できる体制

・身近なクリニックで栄養指導が受けられる

今後の課題

栄養ケア・ステーション但馬の充実

栄養士の人材発掘

但馬地域栄養士会員、ケア・ステーション登録者の増



日本栄養士会HPより

オンライン研修会

講演

「発達特性の理解と食事アドバイス」

講師 ノートルダム清心女子大学

准教授（小児科医）山下美保氏

本日の講義内容

- 神経発達症
 - ①子どもと神経発達症
 - ②神経発達症とは
 - ③神経発達症の分類
- 具体的な食事アドバイス

講師資料より

使われている食材が多い料理が苦手

- ・シチュー、カレー、焼きそば、八宝菜など複数の食材が混ざっていると苦手。
- ・具だけにする。最初は少ない具で作る。



参加者内訳

	管理者等	栄養士	調理従事者	保育士・教諭	保健師等
学校	4	9			
児童福祉	9	12	18	13	
行政		6			7
その他	1	16			

アンケートでは講演に対して、97%が満足・やや満足と回答いただきました。

参加者の感想

- ・発達の特徴が強く出ている子どもに対して、食事のバランスを考えた支援の仕方を学ぶことができ、すぐに園でも実践できる内容がありとても勉強になりました。
- ・子どもの特性により、個々に対応していくことの重要性を学べた。個々の対応については、具体的な対応策を教えていただき、今後の対策の参考にすることができ良かった。